

活動実践事例

小田小学校 荒金庸子

1. 活動の指針

C - ふくらむ思い

自分の思いをふくらませたり、自分なりの想像を広げたりしながら表現していく活動を通して、自分の表現や工夫・技法にこだわりを持って進めていくことを大切にしてい

2. 題材名 「自分をPRしよう！」（絵に表す） 6年・5時間扱い

3. 活動の指針と題材について

本学級では、6年生でクラス編成があり、担任も変わり、初めて同じクラスになったという子ども達もわりといる。そんな中で、新しい友達ができたとうれしそうに話す子もいた。全体的には穏やかな雰囲気の中で、素直でのんびりとしたところが見られる。休み時間には、1年生の所に行き行って一緒に遊んであげる優しさも見られる。

造形活動においては、自分なりに楽しく活動している子が多い。図工は好きという子ども達もわりと多く見られる。4月には、社会科の学習と絡めて、自分が考えるオリジナルの土器や埴輪をつくった。未来の土器や埴輪をつくる子、当時の人の気持ちになって土器をつくる子などがいた。5月には、自分の身の回りの自然に目を向け、動物や植物など「身近な生き物」を身近な材料を生かしながら立体に表現した。登下校の際によく見るツバメの巣をロールペーパーの芯に麻紐を巻きつけて表現した子や下校のときに見たカタツムリをサラダの入っていた透明の容器で表現した子などがいた。6月には、「こんな素敵な！私たちの町」という総合学習と絡めて、自分の町を見直し、いいなと思った所やお気に入りの場所やおすすめの場所などの風景を表現した。自分がよく買いに行くおにぎり屋さんを中心に表現する子や自分の気に入っている公園の水道を中心に表現する子などがいた。

つくること自体は楽しめても作品を完成させるとなると、友達に自分の作品を見られるという意識が強くなりすぎて、無難にまとめようとする姿が多く見られた。また、表現することに慎重になりすぎているような印象も受けた。そんな子ども達の実態から、自分らしさに自信をもつてのびのびと表現する喜びや楽しさを味わってほしいと考えた。

そこで、この題材では、『自分』というものをテーマにしてみた。一番よく知っていて、大切な自分。この『自分』をテーマにすることで、「表したいこと」に自信をもって取り組めると考えた。

題材を取り組ませるにあたっては、「こんな自分を伝えたい」という思いを高めていくことで、「表現したい自分の姿とはどんな自分なのか」「自分をどう表現するか」「どうしたらよりよく伝わるのか」と自分をじっくり見つめ直すことにつなげ、自分らしさを豊かに

表現していけるように考えた。

今回の表現方法をポスターにしてみたのは、色や形、文字などで自分をPRすることにより、言葉や行動だけではうまく伝えきれない自分をよりよく表現できるのではないかと考えたからである。

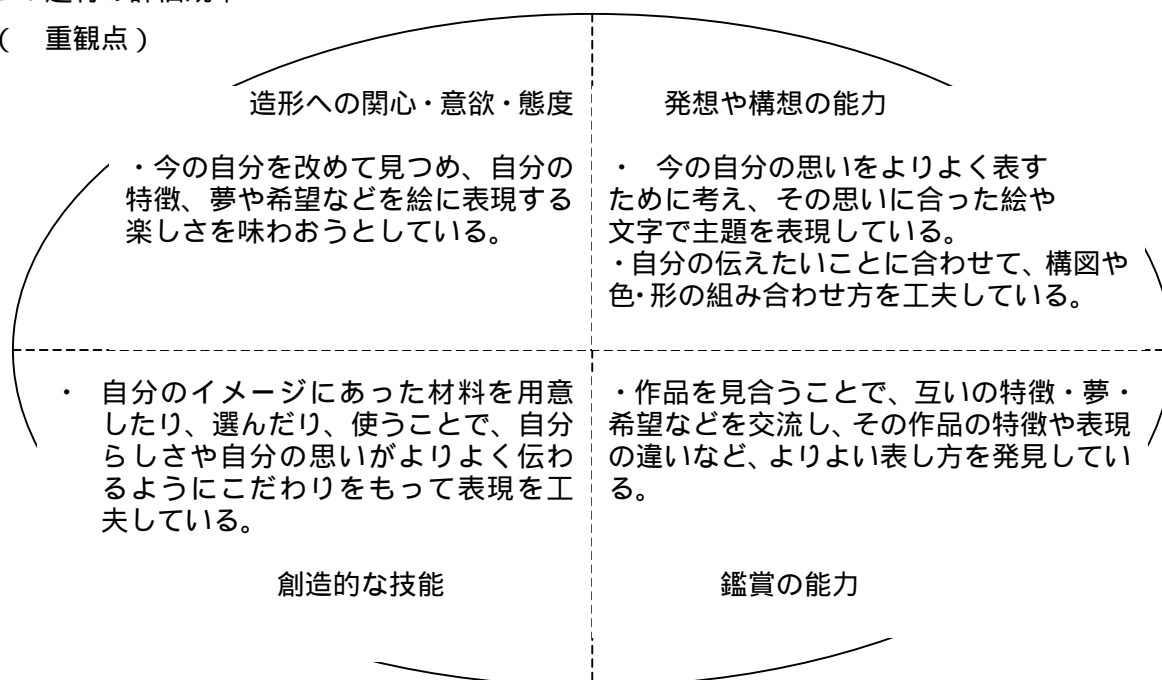
卒業前にもう一度『自分』をテーマにした表現活動をしようと思っている。今回の題材の経験をふりかえり、さらに自分なりの表し方にこだわりをもって、生き生きと表現する姿につながることを期待している。

4. 題材のねらい

自分を見つめ直し、自分の特徴や特技、夢や希望などがよりよく友達に伝わるようにポスターに表す。

5. 題材の評価規準

(重観点)



6. 準備

児童	自分の必要な材料(布・紙粘土・半球のプラスチック・ビーズなど)、はさみ、接着剤、絵の具、色鉛筆など
教師	画用紙、針金、セロハン紙など

7. 指導と評価の計画 (4時間扱い)

時間	子どもの主な活動	教師の働きかけ 評価規準(評価方法)
一次 30分	<p>教師の話聞く。</p> <p>自分の得意なことや好きなこと、自分の特徴など話し合う。</p> <p>思ったより友だちには気づかない一面が隠れていることを知る。</p> <p>参考作品を見る。</p> <p>自分を見つめ直し、どんなふうに自分を表現したいか考え、アイデアスケッチをする。</p>	<p>教師の話(下記のような内容)</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>「　　ちゃんは、ピンクが好きなんだよ」という話題になったのだけれど、「　　」って誰だと思いますか。私はわからなかったのだけれど、みんなはどうでしょう？</p> <p>友達についても知っているようで知らないなんてこともあるんじゃないかな。</p> <p>また、自分の気持ちをわかってもらえていないから、けんかになるということもあるよね。</p> <p>そこで、自分のことを互いに伝えあってみたらどうでしょう？</p> </div> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">今の自分について考えてみよう！</p> <p>「自分ってどんな人？」となげかけ、自分の特徴や好きなことなどについて話し合わせる。</p> <p>互いに知らない面があることに着目させる。</p> <p>「どんな自分を表現したいか」「どんな自分の姿を伝えたいか」考えるよう声かけをする。</p> <p>参考作品を見せることで、イメージのきっかけとさせる。</p> <p>「どんな工夫をしたら、自分らしさができるかな」となげかけをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【関】今の自分を改めて見つめ、自分の特徴、夢や希望などを絵に表現する楽しさを味わおうとしている。 (発言・つぶやき・対話・アイデアスケッチ)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【発】今の自分の思いをよりよく表すために考え、その思いに合った絵や文字で主題を表現している。 (アイデアスケッチ・つぶやき・対話)</p> </div>
二次 120分	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;">自分をPRするポスターをつくってみよう！</p> <p>自分をPRするポスターをつくる。</p>	<p>自分のイメージに合うよう色の組み合わせ方や使う紙の大きさなども工夫するよう声かけをする。</p>



<p>二 次 120 分</p>	<p>思いがより伝わるように自分なりにこだわりをもって材料の使い方を工夫したり、色の組み合わせなどを工夫したりして表現する。</p> <p style="text-align: center;">↑ 行き つ 戻 り つ ↓</p>	<p>工夫しているところやおもしろい表現方法を具体的に紹介する。</p> <p>【発】自分の伝えたいことに合わせて、構図や色・形の組み合わせ方を工夫している。 (活動の様子・作品・写真)</p> <p>【技】自分のイメージにあった材料を用意したり、選んだり、使うことで、自分らしさや自分の思いがよりよく伝わるようにこだわりをもって表現を工夫している。 (活動の様子・作品・写真)</p> <p>イメージや発想の広がらない子には、表現方法のヒントをだしたり、ともに考えたり、友達の作品を参考にしたりするように声をかける。</p>
<p>三 次 30 分</p>	<p style="text-align: center;">誰のポスターか考えながら見てみよう！</p> <p>友だちの作品を見合う。</p> <p>友だちの表現の違いやよさなど、見つけたことをメモしたり、発表し合ったりする。</p>	<p>「互いの表現のよさや工夫しているところを発見しよう」となげかける。</p> <p>発見した友だちの新しい一面やその人らしさが表れているところについて話し合わせる。</p> <p>【鑑】作品を見合うことで、互いの特徴・夢・希望などを交流し、その作品の特徴や表現の違いなど、よりよい表し方を発見している。 (鑑賞の様子・発言・鑑賞カード)</p>

8. 指導の実際(5時間)

子どもの姿

教師の働きかけ

【観点】評価規準(評価方法)

今の自分について考えてみよう!(45分)

自分ってどんな人かな?意見を出し合ってみよう。

「得意なことはピアノかな」「野球少年だな」

「さんは、犬好きだよね」

「僕は結構、うるさいやつだと思う」

「さんは、いつも笑っているね」

「さんがカラス嫌いだとは、知らなかったな」



「自分をどんな風に表現したいか考えて、アイデアスケッチをしてみよう。」となげかけ、表現の仕方は、ポスター風にすることを伝える。

教師との対話をもとに得意なことで表現しようと考えている。

『毎日笑顔』という自分の目標を伝えたいと考えてアイデアスケッチをかいている。

【関】今の自分を改めて見つめ、自分の特徴、夢や希望などを絵に表現する楽しさを味わおうとしている。

(発言・つぶやき・対話・アイデアスケッチ)

表したいことが定まらず、窓の外を見ている。

友達に知ってほしい自分の姿や自分が一番輝いている

ときなどを思い浮かべて、主題を選んでみたはどうかと話す。



アイデアの参考に数枚のポスターを見せ、表現したいものを強調するよう伝えた。

また、半立体の形でもよいことを伝えた。

ボールの部分を半立体で作ろうと準備物の欄に

「ガチャガチャのカプセル」と記入している。

音符の棒の部分を工夫してみようとアイデアスケッチをかきたしている。

【発】今の自分の思いをよりよく表すために考え、その思いに合った絵や文字で主題を表現している。

(アイデアスケッチ・つぶやき・対話)

どんな工夫をしたら、自分らしさが出るかな。

「うるさいイメージを表すのに時計の絵を使おうと思うんだ」

「音符はおはじきを使って表してみようかな」



自分をPRするポスターをつくってみよう(150分)

「自分の何をかけばいいか思い浮かばない」と机に向かいじっと座っている。
「あなたの好きな物や得意なことは何かな？自分がやっていることを人に勧めるようなポスターでもいいよ」などと声をかけ、一緒に考えた。

文字の部分を目立たせるために布を使ってつくっている。
「布の文字に飾りをつけたらもっと目立ちそうだよ。文字が目立つようバックの色も考えてみるといいかな」



情熱の文字を炎のように表現したが、バックの色は白いままにしている。

「情熱の思いがもっと伝わるように、バックも燃えているイメージで考えてみたらどうだろう」

マーブリングの技法を使ったらイメージ通りになるかもしれないと考え、用具を準備し始める。

小さい“色白”の文字と雪だるまの絵で自分の特徴を表している。

雪だるまと色白とどちらをより伝えたいか聞いた。
伝えたいのは“色白”だということで、伝えたいほうをもう少し強調してみてもどうかと声をかけた。

「ボールを表現するのに紙風船で立体的にしているよ」「近くで見るとわからないけど、透かしてみると文字が浮き出てくるね」など工夫しているところやおもしろい表現方法を紹介した。

「バットを立体的にしたいんだけど、どうしたらいいかな」と考えている。

「材料コーナーの中から、使えそうな材料を探してみたら？」と声かけをした。

硯を立体的に作るにはどの材料がよいか、友だちの意見や作品を参考にしている。

【発】自分の伝えたいことに合わせて、構図や色・形の組み合わせ方を工夫している。
(活動の様子・作品・写真)



【技】自分のイメージにあった材料を用意したり、選んだり、使うことで、自分らしさや自分の思いがよりよく伝わるようにこだわりをもって表現を工夫している。
(活動の様子・作品・写真)



誰のポスターか考えながら見てみよう（30分）

友達の仕事のよさや工夫しているところを見つけてみよう。

「うるさい”っていうのを目覚まし時計で表しているのか、おもしろいな」

「　　さんは、好きなものと嫌いなものとで分けてかいてあるのが、とってもおもしろいなと思った。私はそんなことしようと思いつかなかったです」と発言した。

「めがねで　　さんの作品だってわかったよ」

「ハートが浮き出ているのが、大好きという気持ちを伝えていると思う」と鑑賞カードに記入していた。



【鑑】互いの作品のよさや工夫した表現を発見したり、伝えたい思いを感じ取ったりしている。
(鑑賞の様子・発言・鑑賞カード)

9. 実践を振り返って

自分のことについていろいろと話し合いをもったことが、「こんな自分を伝えたい」という思いを高めるためのよいきっかけになり、自分らしさに自信をもって表現しようという意欲につながったと思う。話し合いの中だけでなく、作品を見合う活動の中でも、自分を再発見するとともに友だちの新たな一面を知ることができたようである。

話し合いの中だけでは表現したい自分を見つけられなかった子もいたので、考えを深める時間をとった。そのことによって、「お母さんに“私って笑顔が特徴かな？”と聞いてみたら、“そうかもしれないね”って言われた」とか、「友達に“私の特徴って何だと思う？”と聞いてみたら、“字が上手なことじゃない？”と言われたよ」と話す子もいた。また、「布とか使うのはどうかな？」、「ガチャガチャのカプセルとか材料にしたらどうだろう？」と材料にも目を向け、友だちや教師に相談する子も増えた。

自分の思いが高まっている子は、「ここを大事にしたい」というこだわりをもって進めることができていたので、気持ちを高めるための時間を設定することの大切さを改めて実感した。しかし、気持ちの高まりにも個人差があり、十分に気持ちを高めきれなかった子もいたので、次に活動するときは、気持ちの高まりを引き出すためにふりかえりの時間をもって「次の活動では、こんな風にしてみよう」などと思いを広げられるようにしたい。

また、教師が活動の指針に立ち返り、どの場面でどこを見取るのかを明確に考えておかなければならないということが実践を通して理解できたように思う。これを次への課題にしたい。

いろいろな表現方法を経験してきてはいるが、忘れていたり、思いつかなかったりする児童もいたので、こだわりをとことん追求できるようにするためにも、いろいろな技法を事前に経験させたり、活動の場にお試しコーナーのようなものを準備することも次への課題としたい。

